

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

### 「人生の3つの坂」について

右掲は、小泉純一郎さんが首相の時に語った言葉として有名であります。確かに、人生には「まさか」という事が起こるものですが、普段は、全く気にかけていないのが実情ではないかと思えます。例えば、1の「上り坂」の時は、不思議なもので、このまま、ずっと「上り坂」が続くように思い込んでしまいます。

しかし、「好事、摩多し」という格言でも分かるように、心が緩みやすく、ライバルが必死になって努力しているので「好事」の条件を崩され兼ねないのです。例えば、優位な商品であっても「品質」ばかりではないので、「価格」という要素で海外生産にシフトされて崩される事もあるのです。これらは、当然、起こり得る話なので「まさか」というのでは覚束ないと思えます。

BCP(Business continuity planning: 事業継続計画)という言葉がありますが、「まさか」を想定して、その対策を事前に立てておき、いざという時にマニュアルに従って狼狽えないで行動できるようにする物です。中小企業庁のHPを参照すると「緊急事態に備えて」という大きな視点から「人、物、金、情報、体制」という5つのカテゴリで各種の対策を事前に練るように推奨しています。例えば、「震災」ということを前提とすれば、安全安心の帰宅対策や社内での宿泊に備えた寝具や非常食を上げています。

しかし、「人」の面でも、こういう緊急事態の想定も必要ですが、実は、突然、亡くなるというケースもあり得るのです。重要な研究開発を行っている人や銀行との交渉する人などは、突然、亡くなると企業の存続にも関わ

### 人生の3つの坂

1. 上り坂
2. 下り坂
3. まさか

### 企業の「まさか」には人的損害も考慮に入れる必要があります

るケースが起こり得るのです。ノウハウは文書化されていても不十分なのです。やはり、一緒にやっていて、経験を共有していないと現実に跳ね返されてしまいかねないのです。研究開発は、次の人が引き継ぐことで時間がかかっても可能ですが、銀行との交渉は即実践的な人材でないと経験不足で渡り合えないケースが多いのです。大多数の中小零細企業が「グレーゾーン」に入っているのです。内部資料も対銀行用などと2重にも3重にもなっているケースがあるのです。表向きの数字しか知らないとトンでもない事態に発展しかねないのです。

実際に、ある企業では、社長さんが重病になられて、甥にあたる方が銀行の窓口になって、ついポロリと在庫の状況をしゃべったばかりに、銀行の態度が一変して、以後、一切、融資に応じず、資金繰りに困って他社に迷惑をかけるという判断で「清算」の道を歩むことになったケースもあります。銀行は、普段から疑問に思っていたのでしようが、それを無経験の方にうまく仕掛けて本音を引き出したのです。

また、このご時世ですから、突然、亡くなるケースもあります。このような時に会社でかけておいた保険金が会社の窮地を救うケースもあります。キーマンが亡くなるので、存続か清算かと迫られるのですが、いずれにしても資金が必要になるので保険をかけておく事が重要です。役員の退職金の積み立てを兼ねてされるケースも多いのです。しかし、中小零細の場合、こういう保険に加入されていないケースが多いのでチェック・ポイントでもあります。

### ワンポイント・アドバイス

#### 「商工会議所の生命保険」

当社は、大阪商工会議所が斡旋する保険でリスクに対応しています。月額も低く損金で落として、しかも、返戻金も約40%も見込まれるものです。最低限のリスクを回避する投資です。僅かな金額で大きな安心という誇大になりそうですが、検討の余地あります。

